

愛&ハート

副理事長

- 定年延長と役職定年で築く持続可能な組織

2026年度キックオフ(全体会議)

愛の家

- 施設外での活動を通じて学ぶこと
- 余暇活動を通して得た成長とやりがい
- にぎやかに始まった新年度
- さくら祭り開催
- 新人職員紹介

あいハート須磨

- 高齢者虐待と不適切ケア防止に向けた取り組み
- BCP訓練の実施
- 新人職員紹介

あいハート離宮前

- 桜満開、春爛漫
- 新人職員紹介

2026 May
282号

あいハート須磨
特養ご入居者さま
(玉ねぎの収穫)



あいハート離宮前

桜満開、春爛漫
●主任 丸毛 教嗣

寒さも和らぎ、過ごしやすい季節になってきました。あいハート離宮前は今年も恒例の花見に板宿の権現さん(こ)「證誠神社」に行ってきました。当初は4月1日から4月8日の予定で計画していましたが、1日が終日の雨で中止となりました。以外に天気にも恵まれてお花見に行くことが出来ました。この神社の桜は珍しく枝が地面を這うように伸びていて桜の花を間近に見ることができ、皆さん目の前に広がる桜をとっても幸せそうに眺めていました。



今年も開花が少し早かったこともあり初日から少し花びらが散ることもありましたが「今年もきれいな桜が見れて嬉しいわ。やっぱり桜はいいね」と話されています。また、普段はなかなか外出しながらないご入居者様もお花見は別のよついで、早くから準備をされるなどとても楽しみにされているんだなとすごく感じました。お花見も最終日近くになると花がたくさん散っていたり葉っぱの緑が鮮やかに見えていたりしました。



「桜は散るのも風流。季節を感じるね」とご入居者様同士が話されており本当にお花見ができて良かったと感じました。実は直前の3月中旬から下旬にかけてご入居者様から数名の発熱者が出て、このままではお花見ができないのではないかと危惧しておりましたので、皆さんのうれしそうなお花見を拝見していますと安心感とほっとした気持ちがあふれてきました。

今回はお花見を通じて皆さんに春を感じていただきましたが、気候が穏やかな春には別途外出ツアーも予定しています。今年も皆様には季節を身近に感じていただくように努めていきたいと思っています。最後になりましたが今回お世話になった證誠神社は初詣や七夕の笹を寄付していただくなど大変お世話になっております。本当に感謝しかなくありがとうございます。

新人職員紹介



介護スタッフ 武野 竜馬

はじめまして。武野竜馬と申します。介護職員として11年働いてきました。ご入居者様一人ひとりに寄り添いながら、



介護スタッフ 森本 雅子

安心して過ごしていただけるように心がけています。あいハート離宮前はレクリエーションが豊富で、日々の生活に楽しみや活気を大切に行っている点に惹かれて入職しました。まだ参加できていないイベントがたくさんあるので、ご入居者様と一緒に楽しみながら参加していきたいです。日々の何気ない会話や関わりを大切に、笑顔で過ごしていただけるように努めてまいります。これからも明るく元気に頑張りますので、よろしくお願ひします。

みなさま、初めまして。森本雅子と申します。3月1日付で、あいハート離宮前に介護職として入職いたしました。

介護職としての経験はありますが、有料老人ホームでの勤務は初めてで、まだまだ緊張と不安でいっぱい毎日です。ですが、入居者様のお言葉や笑顔に励まされ、気さくに声をかけてくださる先輩方に指導いただき、恵まれた環境の中で日々学ばせていただいております。また散歩が大好きなので、休憩時間には施設の庭を散歩して癒されております。入居者様の穏やかな生活のお手伝いができるよう、また自身も成長できるように努めてまいります。どうぞご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひいたします。

「皆様の声」受付窓口

全電通近畿社会福祉事業団では、社会福祉法第82条の規定に基づき、利用者家族の皆様等から「苦情」やご意見に適切にお応えするための体制をとっています。面接・電話・書面等どのようなかたちでも結構ですので、遠慮なく、お気軽にお申し出ください。

- 愛の家 072-494-0123
- あいハート須磨 078-737-2525
- あいハート離宮前 078-731-2130
- 法人本部 06-6458-5723

【発行】
社会福祉法人 全電通近畿社会福祉事業団
〒553-0003 大阪市福島区福島 3-1-73
TEL 06-6458-5723
Website <https://www.zendentu-kinki.jp>
Facebook <http://www.facebook.com/zendentukinki>
E-mail jigyodan@silver.ocn.ne.jp

【発行人】
理事長 橋本 寿樹



定年延長と 役職定年で築く 持続可能な組織

副理事長
森本 光弘

当法人では、生産年齢人口の減少を見据えた人材確保施策の一環として、2025年4月より定年年齢の延長を実施しました。正職員の定年年齢を60歳から65歳へ、非常勤職員は65歳から70歳へと引き上げています。正職員については65歳での定年退職後も、70歳までは嘱託職員として月給制による継続雇用を可能としました。さらに、70歳以降についても、本人の意向と職場の状況を踏まえ、個別に相談しながら雇用を継続できる仕組みを整えています。実際に、70歳を超えてなお現場で活躍されている職員もおり、豊富な経験と

知見が組織に大きな価値をもたらしています。

また、定年延長にあわせて「役職定年制度」を導入しました。本制度は、組織の活性化と世代交代の促進を目的として、将来にわたる安定的な組織運営を実現するための重要な取り組みです。新たな人材が責任ある立場を担い、成長していく機会を創出することで、組織全体の持続的発展につなげていきたいと考えています。しかしながら、役職定年制度の運用には難しさも伴います。後任となる人材が十分に育っていない場合には、役職定年の年齢を迎えても引き続き同一の役職を担わざるを得ない状況が生じます。また、役職者自身がその立場に強く固執する場合には、次世代の育成が進まず、結果として組織の新陳代謝が滞るといった懸念もあります。

制度を形骸化させないためには、日頃からの計画的な人材育成と意識改革が不可欠ですが、これらに加えて外部から役職候補者を獲得していくことも重要であると考えております。多様な経験や専門性を有する人材を受け入れることは、組織に新たな視点や刺激をもたらすとともに、内部人材の成長を促す契機になることも期待できます。但し、外部登用には、職場風土への適応や既存職員との関係構築の難しさなど、成果を上げるにはいくつかの課題が伴います。候補者属性の整理や受入体制の整備など、外部登用の成功に向けた検討を行い、内部育成と外部登用の両輪による人



材基盤の強化を実現できればと考えております。

このような中、2026年4月に、あいハート須磨の居宅介護支援事業所において、役職定年制度に基づく部門長および主任の交代が実現しました。これは、同部門が計画的に人材育成に取り組んできた成果であり、法人内における成功事例といえます。円滑な世代交代が実現されたことで、組織には新たな活力が生まれ、今後のさらなる発展が期待されます。

今後も当法人では、多様な人材がそれぞれの力を発揮し、長く安心して働き続けることができる環境づくりを進めるとともに、次代を担う人材の育成や獲得に一層力を注いでまいります。

2026年度キックオフ(全体会議)が開催されました!



▲理事長挨拶



▲施設長訓示(愛の家)



▲施設長訓示(あいハート須磨)

4月1日(水)に、「愛の家」、「あいハート須磨・離宮前」の両施設において、2026年度キックオフ(事業計画説明会)が開催されました。

永年勤続職員への感謝状と記念品の贈呈や、2025年度における事業計画を達成した部門や法人ビジョンの実現に貢献した部門に対する感謝状が授与されました。



その後、2026年度の単年度事業計画及び2026～2028年度の3か年中期経営計画について、施設長、各部門長が説明と決意表明を行いました。

新年度に伴う職員の入退職や人事異動により、組織体制も若干変更となりましたが、気持ちも新たに職員一丸となって日々の業務に努めてまいります。

今後も引き続きご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



▲理事長訓示

新しい仲間を迎えました

福祉人材の確保が難しい状況が続いておりますが、各施設に正職員が複数名入職しました。さらに、外国人職員の方を含む非常勤職員の皆さんも新しく仲間に加わっています。

人事異動に伴う辞令とあわせて採用辞令の交付、入職式が執り行われ、その後は法人の歴史・理念、就業規則、そして働く上での大切なルールなどをじっくりと学び、皆さん真剣な表情で耳を傾けてい



▲入職式(愛の家)

ました。
今後の新人職員の活躍を期待しています。



▲入職時研修(あいハート須磨)



▲入職式(あいハート須磨)

施設外での活動を通じて学べること

●きぼう部門主任 服部 太志

3月には外出レクリエーション活動として、貝塚市にある「明治なるほどファクトリー」へ工場見学に行ってきました。見学では、映像資料を通して乳酸菌のもたらす効果や乳製品の製造過程について学びました。全長120メートルの見学通路では、ヨーグルトが製品化されるまでの工程をガラス越しに見学させていただきました。

「メモを取って将来の進路に役立てたい」と意欲を見せる児童や、「ちょっと怖いから手をつないで見たい」と職員に寄り添う児童など、普段の



施設生活とは違った一面を見せてくれました。

また4月には、株式会社ヤクルト本社様より講師の方をお招きし、子ども向けの出前講座を開講していただきました。子どもたちが自身の健康状態を知ることができるよう、腸内環境をテーマにスライドを用いて学びを深めました。腸には多くの菌が存在し、その中でも「乳酸菌」「ビフィズス菌」は良い菌、「黄色ブドウ球菌」「ウェルシュ菌」は悪さをする菌であることを学び、排便の重要性について理解を深めました。

児童部では、子どもたちの偏食も課題の一つであるなか、どのような食事かどのような効果をもたらすのかという視点をもって支援することができれば、子どもたち自身もより自分の体への関心が高まるのではないかと感じています。施設内での生活場面だけでなく、レクリエーション活動や体験、出会いを通じて子どもたちの学びにつながる機会是非常に大切であると考えています。

職員一同、今後も継続して、子どもたちが主体的にさまざまな活動に取り組む、発達のサポートができるよう努めてまいります。引き続き、「きぼう」の子どもたちを温かく見守っていただけますようお願い申し上げます。

「うん。仲間が増えると空気が変わるよね。にぎやかでええ感じ。」
「それと、昨年度の終わりから新しい内職作業も始まったやん？」
「ああ、商品にシール貼って梱包するやつやる。あれ、意外とみんな楽しんでるにやってるよな。」

「ほんまそれ。『できたー』って声が聞こえてきたり、もっと上手にやろうって意欲が出てきたり、みんなの表情が変わってきてるよな。」
「作業中に見てたら、真剣な顔もあるし、笑顔もあるし、なんかこっちまで元気もあがるわ。」

「新しい仕事って覚えることもあるけど



余暇活動を通して得た成長とやりがい

●かがやき部門支援スタッフ 田上 奈央

私が勤務を始めてから早いもので、今年の4月で6年となりました。6年間を振り返ると、さまざまな経験をさせていただきました。その一つひとつが自分の成長に繋がっていると感じています。

入社したての頃は右も左も分からず、日々業務を覚えていくことに必死で迷惑をかけていないかと不安がありました。その度に、上司や先輩方が親身になって指導してくれたため、少しずつできることが増え、自信をもって業務に取り組みできるようになりました。

こうした経験を重ねるなかで特に力を入れてきたのが、余暇活動です。当時入社したての頃はコロナウイルス感染症のため、外出もままならない状況のなかでの楽しめるような活動を行いたいと、上司に相談を行い、余暇活動を始めました。

初めの頃は先輩と一緒に余暇活動の提案から買い出し実施までの一連の流れを経験させてもらいました。うまくいかないことや戸惑うこともありましたが、その都度丁寧に指導してもらい、試行錯誤を繰り返しながら、少しずつ理解を深めていきました。次第に自ら提案を行い、買い出しから実施することができるようになり、徐々に



配していただいた紀州勝浦漁港で水揚げされた天然メバチマグロ38kgです。昨年も同じメバチマグロ38kgですが、より大きく見えたのは私だけではないと思います。9時30分より順番に記念撮影を行い、11時より日清医療食品株式会社のスタッフによる解体ショーが始まり、20分ほどで解体されました。食事まで少し時間がかかるので、皆さん一旦各フロアに戻っていただきました。12時を少し回った頃、昼食のマグロ丼と桜の花が入ったすまし汁がで



があり、美味しくいただきました。日清医療食品株式会社のスタッフの皆さん、ありがとうございました。

新人職員紹介



かがやき部門 支援スタッフ 村上 太一

このたび、かがやき2丁目の一員として入職いたしました。村上太一(むらかみ たいち)と申します。



に余暇活動を任せてもらえるようになりました。その後、しばらくすると外出の許可も降りたため、ドライブやマリナーシテイ、アドベンチャーワールドなど様々な場所に一緒に出掛けることができました。外出した時の、利用者さんの違った表情(笑顔や驚き)、また、ある利用者さんからは、「ありがとう」、「楽しかった」との言葉を貰ったことを今でも鮮明に覚えています。

これからも利用者さんが楽しめるような余暇活動を提供することができるように行っていきたいと思っています。

にぎやかに始まった新年度

●工房みさき部門主任 辰見 幸子

作業に取り組み中で、利用者同士の何気ない会話が増えてきました。

「暖かくなりましたねえ。なんか、もう暑いくらいですね。」

「ほんまやねえ。なんか工房の雰囲気も明るくなった気がするわ。」

「そうそう。新しい仲間も増えたしね。最初は緊張してたけど、今はもうみんなと打ち解けてる。」

私は福祉の専門学校で障がい福祉を学び、「利用者様一人ひとりの生活を支える仕事に携わりたい」という思いから、この道を志しました。在学中に愛の家にて実習をさせていただいた際、一つひとつの支援に込められた明確な根拠と、先輩方の真摯な姿勢に深く感銘を受け、私もこの環境で成長していきたいと強く感じたことが入職のきっかけです。

これまでの経験として、幼少期から中学までサッカーを続けてまいりました。スポーツを通じて養った「協調性」や「状況を捉える観察力」を活かし、現場では自分自身の課題や支援のニーズをいち早く察知し、周囲の皆様と協力しながら解決に取り組んでいきたいと考えております。

将来は、サッカーの守備的ミッドフィルダーのように、全体を俯瞰して業務を円滑に進める「司令塔」のような役割を担える人材を目指します。そのためにも、まずは多角的な視点を持ち、柔軟な思考で利用者様に寄り添った丁寧な関わりを積み重ねてまいります。

まだまだ未熟ではございますが、一日も早く皆様のお役に立てるよう、諸先輩方のご指導を仰ぎながら、日々誠実に努力してまいります。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

あいハート須磨

高齢者虐待と不適切ケア防止に向けた取り組み

● デイサービスセンター
部門長 原田 浩樹

2026年3月27日、「高齢者虐待と不適切ケアの防止」をテーマとした施設内研修を実施しました。参加職員はデイサービス職員17名。多くの職員が参加し、日頃のケアを振り返る貴重な機会となりました。

研修の冒頭では、あいハート須磨の運営・介護方針を全員で再確認しました。実際の介護と施設の方針は考え方によってはズレが生じやすいため、職員全員が同じ方向を向くためにも再共有は非常に重要であり、理念を見直すことがケアの質を支える基盤であることを再認識しました。

続いて、高齢者虐待の定義と5つの分類(身体的・心理的・性的・経済的・介護放棄)について、法令上の位置づけと具体的事例を踏まえて学習しました。また、虐待を発見した際の通報義務についても確認し、「迷ったら相談・報告する」という姿勢が組織全体のリスク管理につながることを共有しました。

不適切ケアについては、動画視聴と確認テストを通じて、日常業務の中で起こりやすい事例を客観的に振り返

りました。その後の「虐待の芽 チェックリスト」を用いた個人ワークでは、ストレス状況やケアの偏り、コミュニケーションの課題などを自己評価しました。続くグループワークでは、気づいた点を共有し、改善策を話し合いました。



発表では「忙しい時ほど声を丁寧にする」「利用者の表情変化に気づく観察を習慣化する」「職員間で報告・連絡・相談を徹底する」など、現場で即実践できる意見が多く挙がりました。他にも「職員同士の相互理解と支え合いの意識が高まった」と、チームとしての連携強化にもつながった研修となりました。

最後に、不適切ケアと虐待の関係性を示す概念図を確認し、「虐待は特別な場面で起こるものではなく、日常の小さなズレから芽生える」という認識を職員全員で共有しました。

今回の研修は、利用者の尊厳を守り、安全で質の高いケアを提供するために、職員一人ひとりが自らのケアを見つめ直す大切な時間となりました。今後も継続的な学びを通じて、より良いケアの実践を目指していきます。

BCP訓練の実施

● 事業推進担当主任 黒木 涼太

BCP(業務継続計画)とは、災害や感染症が発生しても介護サービスを継続・早期復旧するための計画で、特に介護施設は「生活の場」であり、サービスが止まると利用者の生命・健康に直結するため、非常に重要です。介護施設では2024年4月から策定が義務化されました。自然災害編と感染症編の2種類のBCP作成に加え、職員研修と年1〜2回の訓練実施も必須です。未策定の場合は介護報酬が減算されるため、施設運営に直結する重要な取り組みとなっています。

2026年3月、当施設ではBCP訓練を実施し、今回のテーマを「災害時の排泄」としました。まずは全職員を対象に、災害時の排泄問



題に関する研修動画を個別視聴してもらいました。動画では、阪神・淡路大震災、東日本大震災、そして直近の能登半島地震などで実際に発生した排泄に関する課題が多く紹介されていました。

平成23年度東日本大震災における学校等の対応等に関する調査研究報告書」によると、災害時に困った施設・設備として「トイレ」が圧倒的に多かったとされています。仮設トイレについては、「設置までに3日以上を要した避難所が多かった」「設置されても排泄物の回収者が不在で使用不能になった」「バリアフリー設計がされておらず、高齢者が和式トイレを使えなかった」など、多くの問題が報告されています。

このように、仮設トイレが十分に整うまでには一定の時間を要するため、3〜7日分の携帯トイレ等を備え、自助による排泄準備が不可欠です。職員からの振り返りでも、「食料などの備蓄は意識していたが、排泄への備蓄は盲点だった」という意見が多く挙がりました。

訓練は3月13日・17日・26日の3日間に分けて実施し、地震による断水で3〜7日間トイレが使用できない状況を想定しました。ご入居者や職員が使用する簡易トイレの設置、使用、汚物処理の一連の流れを実際に体験する内容とし、4グループに分かれてポータブルトイレを通常トイレに見

新人職員紹介



特養部門
介護スタッフ
渋谷 涼子

はじめまして。1月中旬から特養2階で勤務しています。渋谷涼子と申します。

前職はユニット型特養で働いていました。

あいハート須磨への転職はカイトクで訪れたのがきっかけになります。利用者様の人数が多く最初は驚きました。しかしスタッフの方や施設内を見ているとここで働きたいなと思ひ応募しました。

働いてみるとまだまだ自分の知らないことや教わる事がたくさんあり、これからも成長していきたいと思っています。

優しい職員の方が多くあいハート須磨に転職してよかったです。

※カイトク…介護・看護有資格者の短時間アルバイト登録サービス



特養部門
介護スタッフ
田中 友梨

みなさん初めまして。4月からあいハート須磨の特養2階で働かせていた

だく田中友梨と申します。

私がこの仕事に興味を持ったきっかけは、祖母が認知症になり、施設に入所したことでした。そこで職員の方々を見て、介護福祉士という仕事に興味を持ち、福祉の道に行くことを決めました。

あいハート須磨の、地域の中でその人らしく笑顔で過ごせる生活の場を提供していること、様々な機械の導入により、安心・安全にサービスを提供できる環境設備が整っていることに魅力を感じ、入職を希望しました。

まだまだ不慣れで、迷惑をお掛けすることがあると思いますが、自分なりに一生懸命努力し、成長していきたいと考えていますので、ご指導の程よろしくお願ひします。



特養部門
介護スタッフ
戸嶋 輝美

はじめまして。4月から特養3階に配属となりました。戸嶋輝美と申します。

他の施設で長年勤務しておりましたが、もっと寄り添える介護がしたいと思ひあいハート須磨に入職することになりました。

まだまだ未熟者であり、ご迷惑をかけることもあると思いますが、一日でも早くお役に立てるようにがんばってまいりますので、ご指導のほどよろしくお願ひいたします。

ご支援をくださった方々

【3月】

後援会費

NTT労働組合 西日本本社総支部 様
NTT労働組合 データグループ本部関西分会 様
NTT労働組合 ドコモグループ本部ドコモ関西総分会 様

寄付金

きらら保険サービス株式会社 様

マッチングギフト

NTT西日本 兵庫支店 様
株式会社NTTドコモ 関西支社 様
株式会社ドコモCS関西 様

(計7件)